

小石川高校ラグビー部

後援会会報 Vol.4

発行責任者 後援会理事長 斎藤守弘 平成 16 年 7 月発行
公式ホームページ <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/8115/>

目次

小石川高校ラグビー部より

- ・平成 15 年度新人戦結果・観戦記
新人戦 - 東農大一高校戦 -
竹井誠 (昭和 32 年卒) 1
- ・新人戦を振り返って
「新人戦とこれから」
多久和真 (2 年生) 3
- ・平成 16 年度春季大会結果・観戦記
春季大会 1 回戦 - 日比谷高校戦 -
木村啓介 (平成 16 年卒) 3
春季大会 3 回戦 - 成蹊高校戦 -
南公一郎 (平成 15 年卒) 6
- ・春季大会を振り返って
「新人戦から春へ」
島崎和徳 (2 年生) 8
「Revenge!!」
佐藤貴子 (2 年生マネージャー) 8
- ・現役部員の状況
- ・卒業生の進路
- ・新任のあいさつ
「新任のご挨拶」
遠藤大輔 (顧問・英語科教諭) 9

連載 OB コラム

- ・「海外の日本人ラグビー」
中村暢幸 (昭和 53 年卒) 9

理事会より

- ・会長あいさつ 10
- ・平成 15 年度寄付者ご芳名 11
- ・平成 15 年度会費納入率(卒業年別) 11
- ・平成 16 年度会費納入のお願い 12
- ・前号における誤記についてのお詫び 12
- ・学年幹事について 12
- ・公式ホームページ紹介 13
- ・後援会メーリングリスト参加のお願い 13
- ・住所不明者 13
- ・編集後記 14

小石川高校ラグビー部より

平成 15 年度新人戦結果

- 1/11 対 頤明館高校
55 - 0 (前半 20 - 0、後半 35 - 0)
- 2/1 対 東農大一高校
25 - 0 (前半 5 - 0、後半 20 - 0)
- 2/8 対 武蔵野東高校
68 - 0 (前半 36 - 0、後半 32 - 0)

平成 15 年度新人戦観戦記

< 第 2 戦 対東農大一高校 >

竹井 誠 (昭和 32 年卒)

平成 16 年 2 月 1 日 (日) 12:05 東農大一高のキックオフで試合が始まりました。

快晴、無風の三鷹高校グラウンドは、防寒具を脱ぎたくなるほどのポカポカ陽気で、天気予報の気温は 10 度と予報されていましたが、絶好の観戦日和となりました。

試合は前半小石川高 1 トライ、後半は小石川高が 4 トライをあげて相手を完封し、25 - 0 で、結果だけみれば快勝した試合のように思えますが、それ程完勝試合ではありませんでした。

前半 25 分間は 1 トライをめぐる手に汗握る接戦だったと言えます。

前半の球の支配率は、小石川高 60% 東農大一高 40% 位に思えるのですが、なかなかトライが奪えない攻防戦が何と 15 分ほど続いて、やっとの思いで前半 15 分敵陣ゴール前で相手のパスミス将球を拾いモールの押し合いから押し込んで初トライを奪いました。

フォワード陣が力を合わせて押し込んだとても良いトライでした。それから前半の残りの 10 分は、両チームの必死の攻防戦の繰り返しで、私達応援する者も盛んに声をあげ早く追加点を取って安全圏に入ってほしいと力が入ります。

昨年の新人戦は、玉川学園のグラウンドをはじめ 2 度程、応援させていただきましたが、前半勝って後半の後半に逆転負けを喫した試合がふと頭

に浮かびます。

選手も負けた気のしない試合でした。

結局、前半は追加点はあげられず、ハーフタイムとなりました。

12 時 40 分、後半 25 分間の試合が小石川高のドロップキックにより始まりました。

短めのそのキックをキャッチしたのは何と全力で突っ込んでいった紫色のジャージでした。

その紫色のジャージは、次の瞬間、緑色に胸に一本の黄色縞の東農大一高のジャージで押し倒されるだろうと思っていましたが何と緑色のジャージの中を縫う様に走り抜けてゴールに飛び込んでいきました。

誰かがフォローしたのか、どうしたのか私には判然としません。みんなが“オイ！ノーホイットライだよ！”と歓声をあげています。アツという間の出来事で、時間としたら 20 秒とはかかっていない 2 つ目のトライでした。

3 つ目のトライは、後半に入って 5 分、中央ラインからボールをバックスがパスで廻して中央にトライしたもので、ゴールはバーにはばまれて成りませんでした。絵に描いたような格好いいトライでした。

後半戦 5 分で 2 トライをあげ、15 - 0。

2 トライ、2 ゴールをとられても、大丈夫なリードを得て、はじめて安心して試合を見られるようになりました。

この頃のボールの支配率は、小石川 70% 位で、相手はあせりを感じ始めたようです。

相手スタンドオフは、センターと示し合わせて、盛んにシザースパスを繰り返し、小石川ライン突破を計るのですが、ことごとくタックルでこれをはばみ、又、相手フォワード陣が背番号 3 の大型選手にボールを集め、果敢にモールで突破を計るのをよく小石川フォワードが抑えていたのが印象的でした。

後半 10 分、20 分とトライを重ね 25 - 0 とリードを広げ、ノーサイド寸前、小石川高 11 番がタッチライン沿いに相手をおかわし、ゴールに駆け込ん

だ後、中央へ廻ろうかと逡巡し、相手に追われて狭いゴール外にグランディングして、何とノートライ。第 6 番目のトライは“幻のトライ”となってしまいました。

相手は 25 ヤードラインからタッチキックをして反撃しようと試みましたがボールがタッチを切ったところでノーサイドの笛が吹かれました。

私達 OB は勝てば嬉しい負ければ残念と、自分の高校時代の童心に戻って至福の時をすごさせていただきました。

帰路の三鷹駅前での昼食祝勝会が盛り上がったことは、言うまでもありません。

終わりに、日頃生徒さんの健康、怪我を心配しながら指導に当たられている先生方そして父母の皆様にご心より感謝いたし、御礼を申し上げます。

< 第 3 戦 対武蔵野東高校の写真 >





新人戦を振り返って

「新人戦とこれから」

多久 和真 (2年生)

僕は新人戦でチームメイトのケガもあり、1試合目は後半から、2、3試合目はフル出場しました。この大会で僕は合計6トライ、1ゴールという成績でした。これも他のメンバーがトライにつながるサポートをしてくれたからだと思う。

ラグビーの言葉で「one for all, all for one」というものがあるが、この新人戦ではチーム全体でそれができたと思う。だから僕のトライをはじめチーム全体で大量得点をあげ、さらには全試合無失点で終えることができたのだと思う。しかし大会を通して多くの課題が残った。自分の反省点は、集中力が途切れ、軽いプレーをしたり、タックルに行くのを怖がったりしていたことだ。またチーム全体の反省点としても簡単なミスが目立った。新人戦はリーグ戦だからよかったものの、さらには上のレベルを狙う小石川にとって、これらの反省点は克服されなければならない。練習中は全員で集中し、小さなミスを誤魔化すことなく注意することが大切になってくる。勝ちにこだわった良い雰囲気での練習ができるよう今後も心がけていきたい。

平成 16 年度春季大会結果

4/18	対日比谷高校 33 - 5 (前半 19 - 5、後半 14 - 0)
4/25	対玉川学園高校 14 - 10 (前半 0 - 10、後半 14 - 0)
4/29	対成蹊高校 0 - 59 (前半 0 - 12、後半 0 - 47)

平成 16 年度春季大会観戦記

<1 回戦 対日比谷高校>

木村 啓介 (平成 16 年卒)

4 月 18 日、午前 10 時玉川学園記念グラウンド

にて小石川高校対都立日比谷高校の試合が行なわれた。

小石川のキックオフで試合開始。開始 5 分、CTB 山田の当たりで相手選手が怪我、日比谷は 14 人で戦うことになり小石川は一人多い状態で試合が進む。しかしこの後タックルが少し甘くなり攻め込まれる時間が続くが、相手の反則にも救われ何とか耐える。

前半 12 分、小石川は BK で右に展開し、CTB 春日が相手 DF のギャップをつき独走トライ。キックを後藤が決めて 7 - 0。

この後も小石川の攻撃が続く。ターンオーバーから連続攻撃でチャンスを作るがこれはスローフォワードでトライならず。このあと日比谷は 15 人に戻る。

18 分、春日がラインの裏に出て相手をひきずりながらもインゴールまで進むがグラウンディングできずトライにはならず。しかしそれで得たスクラムから BK サインが決まり FB 後藤が抜けてトライ。キックも決まって 14 - 0。

前半残りわずかとなるが、ここから日比谷に押される。自陣からのキックが中途半端になったところを拾われ、右に展開されてトライを奪われてしまう。キックは外れて 14 - 5 となる。

小石川も 25 分、グラバーキックでゲインし、敵陣でモールを組んで押し込み最後は LO 藤沼が抜けてトライ。キックは外れて 19 - 5 で前半を終える。

後半開始直後は一進一退の展開が続く。小石川は左右に展開したりモールで押し込むが、ノックオン等で攻めきれない。逆にドロップアウトのキックをチャージされてピンチを招くが、全員で良くタックルをし、日比谷にトライを取らせない。

後半 10 分、BK から FW への返しパスがうまく決まり小石川のトライ。山田のキックはわずかに外れるが 24 - 5 とリードを広げる。

それからはまたこう着状態が続く。ここでは両者ともイメージミスが少し多かったように思う。キックもあまり有効に使えなかったし、タックル

が甘い場面が何度かあった。

そして後半残りわずかというところで、あせった日比谷のパスを CTB 春日がインターセプトし、そのままトライ。小林のキックが決まったところでノーサイドの笛が鳴った。結局 33 - 5 で小石川が勝利をおさめた。

試合は終始小石川が押していて、安心して見ていられる時間が多かった。また、新人戦の雪辱という形で勝利をおさめる事ができた。これからにつながる勝利だったと思う。

<2 回戦 対玉川学園高校の写真>





<3 回戦 対成蹊高校>

南 公一郎(平成 15 年卒)

キックオフは 11 時 10 分であった。日差しが強く、砂煙が舞う日大二高グラウンドに着いたのは 11 時をまわっていた。相手はシード校である成蹊高校。最近力をつけてきたチームだそうだ。そんな精神的プレッシャーの中選手たちはお互いに声を掛け合い、士気を高めていった。

15 分遅れで試合が始まった。CTB 春日のキックオフから試合は一進一退の攻防が続く。先にリズムをつかんだのは小石川高校であった。開始 7 分、敵陣ゴール前 10m のマイボールラインアウト。惜しくもボールが乱れ、捕られた。そして成蹊の速攻。自陣まで戻された。次第に成蹊がボールを保持する時間が長くなる。しかし小石川は詰めるディフェンスで相手にゲインをさせない。そしてフォワードの集散によって相手に継続を許さなかった。

しかし 24 分に集中が途切れトライを許す。その後 WTB 横瀬のシンピンという人数的にも不利な中、33 分にまたしてもトライを許す。

前半が終わりまだ 12 点差。ベンチでは勝てるのではという期待もあった。しかし選手たちはぎりぎりまで話し合っていた。今から思えばチームの雰囲気盛り下がっていた。一方、成蹊は負けるはずがないと言わんばかりに声をあげていた。

そんな中、後半戦が始まった。開始 5 分で 1 本そしてすぐに 2 本目のトライを許してしまう。勇ましい武田の声で士気を上げようとしても、成蹊のリズムが続き、またしてもとられてしまう。次第に小石川は足が止まるようになり、残り 10 分からは次々にとられてしまった。

結果は 0 対 59。結果だけ見れば大敗だ。しかし勝つことは十分に考えられた試合であった。それだけに悔しい思いがこみ上げてくる。





春季大会を振り返って

「新人戦から春へ」

島崎 和徳 (2 年生)

新人戦を終えて、チームは無失点で全勝。僕はケガもあり、SO として 3 試合中 2 試合に出場しました。全勝という成績とはいえ、チームにはいくつか課題が残りました。

まずつまらないミスが多いということ。無理なパスがつかまりながらのパスといった軽いプレーが多く見られたことです。このような課題を念頭に置き、春季大会に向けて練習をしてきました。主にラック・モールの球だしの練習や、ダッシュ・ジャンプなどのフィットネスの強化を中心に取り組んできました。新人戦では良いテンポでボールを出すことができましたが、より早くきれいな球出しができるよう、スピードを意識して練習に励みました。前述のように僕はケガのためほとんど練習に参加できませんでしたが、外から見ても、スピードがあり動きもよく、チームは確実に成長していました。

春季大会の初戦は幸運にも昨年新人戦のセレクション試合で負けた日比谷高校でした。チームはリベンジするチャンスということで気合いが高ぶっていました。前回の試合では自分達のミスで自滅し、とても悔しい思いをしたので、練習ではとにかくミスをしないで継続することを意識してきました。試合前のチームの雰囲気は前回とは比べものにならない程よく、全員が声を出して、気合いが入っていました。試合結果は 31 - 5。差を付けることができました。しかし試合内容は必ずしも満足のいくものではありませんでした。僕が FW を真っ直ぐ突っ込ませ過ぎて、外のスペースがなくなってしまう、両ウィングの走力を活かすことができなかつたことが反省点です。これからの目標は走力のある BK 陣を最大限に活かして勝ち進んでいくために、視野をもっと広くもち、正確なパスを意識するという事です。

これからも SO としてチームに貢献していきたい

と思います。

「Revenge!!」

佐藤 貴子 (2 年生マネージャー)

新人戦では 3 試合全勝という素晴らしい成績を残すことができた小石川ラグビー部は春季大会に向けてますます強くなってきたように思います。しかし試合を見ていると、どうしてもメンタルな部分でまだまだ克服しなければならない点があるようにも思えました。そんな時山田先生の「キャプテンに頼らず 1 人 1 人が気持ちを上げていけ」という言葉が強く心に響いたのか、試合前にはそれぞれが 1 番ベストな状態で試合ができるようにと、私にはまるで殺気立っているように見えました。

初戦は日比谷戦。試合が始まって最初はまだ思うように力が発揮できないのか「あと少しのところ」という場面が多く、なかなかトライを取ることができませんでした。しかし前半 9 分にトライを取ったあとは小石川の気持ちが乗り始めたようで、最終的には 31 - 5 というスコアで、以前負けてしまった日比谷高校に見事勝つことができました。今回の勝因はメンタル部分の克服、つまり今まで以上に、相手以上に勝ちたいと思う気持ちが強かったことだと思います。今後の試合でもその強い気持ちを忘れずに心身とも一回りでも二回りでも成長してほしいと思います。

現役部員の状況

昨年に続き、39 人と近年にない多くの部員で活動を行っています。

	ラグーマン	マネージャー
1 年生	13 人	2 人
2 年生	9 人	2 人
3 年生	12 人	1 人
総勢	34 人	5 人

卒業生の進路

<平成 16 年卒業生>

木村 啓介 (慶応大学理工学部)

富山 未央 (明治大学理工学部)

中西 諒 (明治大学法学部)

矢野 悠 (大正大学人間学部)

<平成 15 年卒業生>

石橋 勝也 (早稲田大学教育学部)

清田 進之介 (早稲田大学商学部)

寒河江 創 (上智大学文学部)

藤本 真由子 (立教大学理工学部)

前川 拓人 (上智大学経済学部)

南 公一郎 (日本大学生物資源学科)

森田 徹郎 (立教大学経済学部)

新任のあいさつ

「新任のご挨拶」

遠藤 大輔 (顧問・英語科教諭)

みなさん、初めまして。この春小石川高校に新任として採用され、ラグビー部顧問の 1 人になりました遠藤と申します。この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

私は高校からラグビーを始めました。私が入学した埼玉県の朝霞高校はラグビー部員が非常に多く、各学年で紅白戦ができるほどでした。このような環境の中で、「同学年の奴だけには負けたくない」と必死に練習していたことを覚えています。前評判はなかなか良かったのですが、結局最後の花園予選はベスト 16 止まりでした。原因は、個々のプレイヤーが持っていた「俺が俺が」という意識だったと思います。レギュラーを取るためには「俺が俺が」という意識は必要ですが、結局その意識が強すぎてチームとしてまとまらなかった。その事に最後まで気付かなかった。

ラグビーは、見かけによらず「心」が大きく作用するスポーツだと思います。パスをする時やフォロースタップする時、仲間が何を考えているのか思いやる

「心」。絶対に勝つ！という勝つことに対する執念の「心」などなど。「心」が充実しているチームは強い。

現在の小石川は、可能性のあるチームだと思っています。大差をつけられた試合でも、最後まで追いかけてタックルできるチームです。秋までに基礎体力を上げることができれば、花園予選でトーナメントの上位に出てくる可能性のあるチームです。そのために私がラグビーを通して学んできたことが少しでも役立てば、と考えています。今後のチームの応援をよろしくお願い致します。

連載 OB コラム

前号より始まりました連載 OB コラムですが、今回は、昭和 53 年卒の中村暢幸さんに書いていただきました。ありがとうございます。次号は、昭和 54 年卒の渡辺将さんに書いていただきます。よろしくお願いいたします。

「海外の日本人ラグビー」

中村 暢幸 (昭和 53 年卒)

このリレートークの第 1 回目で石森さんが紹介してくれましたが、私は 1986~1992 年と 1995~1999 年の 2 回にわたって勤務でニューヨーク (NY) に滞在し、その間、日本人チームでプレーをしていました。

海外の日本人ラグビーチームといえば、ラグビー発祥の地ロンドンにある「ロンドン・ジャパニーズ」が一番有名です。1979 年設立と歴史もあり、宿沢元日本代表監督をはじめ多くの有名プレイヤーが在籍していたため、名前を聞いたことがあるという方もいるかと思います。

一方で、アメリカでもラグビーをプレーする人は多いの？という疑問を持つ方も多いかもしれませんが、結構プレー人口は多いのです。特に NY のある東部はイギリス系移民が多いためか、地元のクラブチームがかなりの数あり、トーナメ

ント大会も開催されるほどです。

私が所属していた「ニューヨーク・オール・ジャパン・ラグビー・クラブ」というチームは、1982年頃、日本代表が米国遠征で NY へ来た事を機に、当時 NY に駐在していた元日本代表の狩野均氏が中心となり、ニューヨーク地域在住のラグビー好きの日本人が集まり結成されたチームです。

私は 87 年から参加していましたが、当時は 15 人集めるのが容易でなく、年に数回練習・試合といった状況でした。しかし、再度所属した 95 年以降は活発に活動を行っており、春秋シーズンはほぼ毎週のように地元クラブチームとの試合があり、さらに各地へ遠征試合（ロンドン、モンテリオール、バハマ、シアトル、ニューオーリンズ等）という、充実したラグビーライフを謳歌することができました。

相手チームは各クラブの「オールド・ボーイズ」と呼ばれる 35 歳以上のチームです（中には元トッププレイヤーがいることもありましたが）。当然、体格は我々を上回っていますが、スピードと展開で、結構、勝っていました。

ニューヨーク・オール・ジャパンは、高校生から 50 歳台まで、初心者から元トッププレイヤーまで（高校以来久しぶりという人が結構多かった）といろんな人の集まりです。高校・大学・社会人のチームとはまた違った雰囲気を持っていますが、皆、ラグビーが好きで集まっており、一緒にプレーした「ラグビー仲間」として帰国した今でも交流が続いています。

現在、日本人在住者が多い世界主要都市には、日本人チームが数多くあります。私が知っているだけでも、アメリカでは、NY のほかシカゴ・ロサンゼルス、ヨーロッパではパリ・ミラノ・フランクフルト、アジアではシンガポール・香港・バンコク・上海・クアラルンプール等です。

現役・OB の方々で、海外在住の機会があったら、そして海外でも楕円球に触りつづけたいと

思ったら、是非、現地のジャパニーズチームでプレーしてみてください。

さて、このコーナーはリレー形式なので、次は、昨年 7 月 12 日の OB 総会の試合で久しぶりに一緒にプレーした、54 年卒の渡辺将君にバトンタッチしたいと思います。彼もまだプレーしているとのことで、現役の頃と（見た目も）変わっていませんでした。

理事会より

川口会長のあいさつ

先日行われました春の大会は三回戦で成蹊に大敗して終わりました。今年に入ってからの試合は新人戦で三試合をすべてシャットアウトで勝ち、この春の大会でも最初の都立日比谷高校に快勝しそして二回戦では玉川学園に逆転でヒヤヒヤの勝利を収めました。どの試合もタックルが良く、戦う姿勢が前面に出た非常に素晴らしいものでした。それ故三回戦で成蹊に大敗したのが残念ではありません。ラグビーではお決まりのパターンにはありますが、後半に入り実力差が出て点差を大きく開けられた訳です。このお決まりのパターンにはまってしまったのが癪に障ってなりません。しかし、振り返って自分の高校時代を思い出してみると快勝の記憶は全く無く、今回と同じ様な負け試合ばかりだった様な気がします。よって余り偉そうな事を言うのは止しましょう。一番悔しいのはやはり現役の高校生なのでしょうから。

こうやって昔を思い出して悔しがったり出来るのも現役の高校生が頑張ってくれているからで、本当に感謝です。一人でも多くの皆様と一緒に現役高校生の試合を見てこの様な気持ちを共有出来たらなあと思っております。

平成 15 年度寄付者ご芳名 (敬称略)

昨年度は会費納入のほかに、39 名の方々からご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

昭和 27 年	杉田 安啓	45000 円	昭和 33 年	斎藤 豊寿	5000 円
昭和 32 年	池田 史郎	10000 円	昭和 34 年	池 誠	5000 円
昭和 32 年	石崎 駿一	10000 円	昭和 34 年	江崎 登志雄	5000 円
昭和 35 年	鈴木 隆	8000 円	昭和 36 年	笹本 東作	5000 円
昭和 44 年	清田 滋	8000 円	昭和 39 年	田野 正人	5000 円
昭和 25 年	竹割 克爾	5000 円	昭和 40 年	豊田 皓	5000 円
昭和 25 年	伊達 正	5000 円	昭和 41 年	俵 一雄	5000 円
昭和 25 年	萩原 正	5000 円	昭和 42 年	川口 明	5000 円
昭和 26 年	井上 洋二	5000 円	昭和 43 年	堀井 良介	5000 円
昭和 27 年	相沢 庄平	5000 円	昭和 47 年	秋山 弘子	5000 円
昭和 27 年	南雲 不二彦	5000 円	昭和 48 年	村田 伸一	5000 円
昭和 28 年	小山 知泰	5000 円	昭和 50 年	小熊 正明	5000 円
昭和 31 年	岡 英夫	5000 円	昭和 54 年	金安 正弘	5000 円
昭和 31 年	岸野 匡伸	5000 円	昭和 58 年	若林 俊康	5000 円
昭和 31 年	長谷川 稔	5000 円	昭和 59 年	木村 智幸	5000 円
昭和 31 年	堀越 雅郎	5000 円	昭和 59 年	渡辺 豊	5000 円
昭和 32 年	小泉 恵一	5000 円	平成元年	塩野入 豊	5000 円
昭和 32 年	竹井 誠	5000 円	平成 3 年	大前 裕之	5000 円
昭和 32 年	坂下 勝平	5000 円	平成 7 年	河村 護	5000 円
			昭和 27 年	浅川 幹雄	3000 円

平成 15 年度会費納入率(卒業年別)

卒業年別年会費納入率							
昭和 25 年	83.3% →	昭和 39 年	16.7% ↗	昭和 53 年	0.0% ↘	平成 4 年	0.0% →
昭和 26 年	22.2% ↘	昭和 40 年	25.0% ↗	昭和 54 年	30.0% ↗	平成 5 年	15.0% ↘
昭和 27 年	50.0% ↗	昭和 41 年	22.2% ↗	昭和 55 年	21.4% ↗	平成 6 年	0.0% ↘
昭和 28 年	25.0% ↘	昭和 42 年	20.0% ↘	昭和 56 年	10.0% ↘	平成 7 年	31.3% ↘
昭和 29 年	20.0% ↗	昭和 43 年	22.2% ↗	昭和 57 年	14.3% ↘	平成 8 年	10.0% ↗
昭和 30 年	25.0% ↗	昭和 44 年	30.0% ↗	昭和 58 年	44.4% →	平成 9 年	0.0% →
昭和 31 年	66.7% ↘	昭和 45 年	10.0% ↘	昭和 59 年	35.7% ↘	平成 10 年	0.0% ↘
昭和 32 年	61.5% →	昭和 46 年	30.0% ↗	昭和 60 年	5.9% ↗	平成 11 年	15.4% ↘
昭和 33 年	33.3% ↗	昭和 47 年	6.3% →	昭和 61 年	12.5% ↘	平成 12 年	50.0% ↘
昭和 34 年	60.0% ↗	昭和 48 年	22.2% ↘	昭和 62 年	6.3% ↘	平成 13 年	75.0% ↗
昭和 35 年	30.8% →	昭和 49 年	9.1% ↘	昭和 63 年	6.3% →	平成 14 年	15.4% ↘
昭和 36 年	44.4% ↗	昭和 50 年	25.0% ↘	平成元年	12.5% ↘	平成 15 年	10.0%
昭和 37 年	11.1% ↘	昭和 51 年	11.1% →	平成 2 年	10.5% ↗		
昭和 38 年	18.2% ↘	昭和 52 年	33.3% ↗	平成 3 年	13.0% ↘		

↗:増加 →:同じ ↘:減少

平成 16 年度会費納入のお願い

今後も後援会活動を充実させていくため、年会費の納入をお願いします。

また、同時に寄付も募集しています。年会費と同時に振込みください。ご協力よろしくお願ひします。平成 15 年度会費未納入者の方で今年度会費額を超えて納入していただいた方は、超えた分を平成 15 年度会費分とさせていただきます。

(1)年会費は後援会規約第 6 条により社会人は 5000 円、学生は 3000 円となります。

(2)年会費・寄付の納入方法は以下のとおりです。

郵便局

同封の用紙（口座番号などはすでに記入済）に金額、送金人住所氏名を記入し、郵便局にてお振り込み下さい。（手数料は不要です）

銀行

みずほ銀行 駒込支店（店番号 559）
普通預金 口座番号 0451272 小石川高等学校ラグビー部後援会

(3)会費納入は 7 月末日までをお願いします。また寄付は随時受け付けております。

前号における誤記についてのお詫び

前号におきまして、郵便局の口座番号に誤りがありました。多くの方々にご迷惑をお掛け致しまして、申し訳ありませんでした。今後、このようなことがないよう、チェック体制を万全にし、会報作成にあたってまいります。

学年幹事について

昨年度より連絡体制強化のため、学年幹事を作りました。以下のように各学年 1 名、ないし 2 名の方々になっていただいております。まだ学年幹事が決まっていない学年もございます。なっていただけの方がいらっしゃいましたら、是非編集後記にありますが連絡先までご連絡ください。

昭和 50 年度	
昭和 51 年度	小泉 良紀
昭和 52 年度	平 耕一
昭和 53 年度	中村 暢幸
昭和 54 年度	渡辺 将
昭和 55 年度	新保 泰広
昭和 56 年度	矢島 秀一
昭和 57 年卒	森林 滋
昭和 58 年度	藤枝 昭裕
昭和 59 年度	渡辺 豊
昭和 60 年度	
昭和 61 年度	道家 竜馬 花島 毅
昭和 62 年度	原 敬一郎
昭和 63 年度	中村 浩一
平成元年度	嵯峨山 聖基
平成 2 年度	井上 浩志
平成 3 年度	栗村 賢司
平成 4 年度	
平成 5 年度	菅原 賢
平成 6 年度	尾崎 公律
平成 7 年度	浜田 尊之
平成 8 年度	
平成 9 年度	
平成 10 年度	
平成 11 年度	山崎 陽一郎
平成 12 年度	武藤 拓馬
平成 13 年度	島崎 将成
平成 14 年度	川崎 智康
平成 15 年度	齋藤 十五

公式ホームページ紹介

円滑な情報伝達と会員の親睦を図るために小石川高校ラグビー部後援会のホームページを開設しております。ホームページのアドレスは <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/8115/> です。ホームページ上の掲示板には OB、OG をはじめ、現役部員も書き込んでいます。1 度ご覧になり、近況や後援会に対するご意見、現役生への励ましなどを是非お書き下さい。

また現役の練習スケジュールも載せておりますので、ぜひ練習日程を確認していただき、グラウンドに足をお運び下さい。

後援会メーリングリスト参加のお願い

会員間の情報交換及び試合日程のお知らせなどのために後援会のメーリングリストを運営しております。現在の登録者数は、会員数に対し、それほど多くありません。ぜひ同期の方などにも声をかけていただき、より多くの方々に登録いただければと思います。登録を希望の方は、編集後記にあります連絡先まで、E-mail などでご連絡ください。

住所不明者

(敬称略)

旧顧問	内藤 敏明
昭和 28 年卒	藤井 總明
昭和 29 年卒	神田 孝行
昭和 30 年卒	近藤 弘
昭和 31 年卒	勝部 照雄
昭和 33 年卒	郡司 裕美
昭和 33 年卒	佐藤 芳之
昭和 34 年卒	山岸 萬男
昭和 35 年卒	前田 忠昭
昭和 36 年卒	江口 次郎
昭和 36 年卒	竹内 誠
昭和 37 年卒	杉本 優
昭和 37 年卒	伊藤 博利
昭和 37 年卒	船越 丈生

昭和 38 年卒	鈴木 健
昭和 38 年卒	野口 順三
昭和 38 年卒	清水 正一
昭和 39 年卒	金沢 洋一
昭和 39 年卒	西尾 征二
昭和 40 年卒	宮田 光彦
昭和 42 年卒	中村 喜昭
昭和 43 年卒	吉田 隆治
昭和 44 年卒	蛭田 真一
昭和 44 年卒	柳原 彰一郎
昭和 45 年卒	成澤 淳
昭和 46 年卒	堤谷 正俊
昭和 49 年卒	幸島 敏
昭和 50 年卒	荒井 優二
昭和 53 年卒	菊地 昭仁
昭和 53 年卒	永田 利樹
昭和 54 年卒	越田 明宏
昭和 55 年卒	徳川 直久
昭和 55 年卒	手塚 正時
昭和 55 年卒	大多和(森) 節子
昭和 56 年卒	泉 達也
昭和 57 年卒	佐々木 清子
昭和 58 年卒	矢作 真樹
昭和 59 年卒	遠藤 誠
昭和 59 年卒	木内 俊直
昭和 60 年卒	江尻 剛
昭和 60 年卒	平石 憲一
昭和 61 年卒	山本 浩司
昭和 62 年卒	荒井 健次
昭和 62 年卒	五十嵐 雅祥
昭和 62 年卒	岩佐 和典
昭和 62 年卒	高岡 由紀子
昭和 63 年卒	菅野 悦也
昭和 63 年卒	小笠原 裕司
平成元年卒	田代 安史
平成元年卒	宮本 健
平成元年卒	鴻谷 絵里
平成元年卒	小室 文也
平成 2 年卒	斉藤 慎也
平成 2 年卒	橋本 智
平成 3 年卒	近江 啓
平成 3 年卒	岩崎 幸司
平成 3 年卒	木村 剛志
平成 3 年卒	松崎 浩史
平成 3 年卒	山畔 智身
平成 5 年卒	鬼久保 大輔

平成 5 年卒	小山 慎一郎
平成 5 年卒	高野 信一郎
平成 6 年卒	佐藤 大喜
平成 6 年卒	酒井 くみ子
平成 7 年卒	榎 達也
平成 7 年卒	加藤 拓磨
平成 9 年卒	梅谷 哲也
平成 9 年卒	井口 敦

以上の皆様の住所をご存知の方、引越し等で住所を変更される方は編集後記にあります連絡先までお知らせください。

編集後記

昨年の秋季大会のメンバーが 9 人残り、新人戦はリーグ戦ながらも 3 戦全勝の全試合無失点。その勢いで望んだ春季大会は 4 年ぶりにベスト 16 にはなったものの、ベスト 8 の壁まであとわずかな一歩が届かなかった。しかし昨年の春季大会敗退から小石川ラグビー部には私達を「期待」させるものがあつたのは確かである。そして次は秋季大会に向けてさらに「期待」を寄せることだろう。今回で第 4 号を迎えたこの会報も書くコンテンツに楽しみが増えてきた。1 年生はプレーヤー 13 人・マネージャー 2 人入部し、また 3 年生は全員残った今年のチームは秋季大会を本当に楽しみにさせてくれる。

まだまだ向上の余地が無限に残っている小石川ラグビー部、そしてもっと「期待」をさせてくれる小石川ラグビー部を精一杯応援していきたいと思う。

末筆になりましたが、発行が大変遅れてしまったことを後援会のみなさまに心からお詫び申し上げます。同時に本報の編集にあたり、ご多忙の中原稿執筆などご協力を頂きました皆様に感謝申し上げます。

(編集担当：野渡寛介(平成 14 年卒))

なおこの会報についてのご意見、お問い合わせ等は、以下の連絡先までお願いいたします。

<連絡先>

武藤拓馬(平成 12 年卒)

住所:〒175 - 0082

東京都板橋区高島平 7 - 20 - 10 - 404

TEL : 090 - 6140 - 8356

E-mail : brief_schicken@hotmail.com

次回の会報は平成 16 年 12 月発行の予定です。